

中国の書簡文

——聞一多の場合——

鈴木義昭

はじめに

中国における書簡文（＝尺牘文）の歴史は長く、古来、文人たちは詩と書簡に全精力を費やしたと言っても過言ではない。「尺牘」という時の「牘」とは、『説文解字』に、「牘、書版也」とあるように、一尺の板に書かれた手紙のことを言う。別名、「尺素」、「尺書」、「尺紙」、「尺翰」、「尺錦」、「尺簡」とも呼ばれる。こうした尺牘には、書・札・簡・啓・帖・表・疏・函等がある。例えば、司馬遷「報任少卿書」、諸葛孔明「誠子書」、陶淵明「与子儼等疏」、李白「与韓荆州書」、白居易「与元九書」等、各時代に亘って書き継がれている。いずれも『古文真宝』等のアンソロジーに収められることにより、わが国でも相当の読者を得たのである。ただ、それを書簡と意識したかどうかは定かではない。中国では、宋代以降になると、個人の文集中にも尺牘文の分、一卷を割き与えるようになってくる。書簡を文学の中に位置づけようとする意識が働いていることは事実であろう。

一

一九世紀末に生まれた近代詩人、聞一多にも多くの書簡が残されている。ただ、書簡という存在を考えてみる時、それが後世に残るにはかなりの僥倖性が伴うものである。或いは、信書の秘密故に公表できないものも含まれているであろう。彼の場合、幸いにも、父母に書いたもの、兄弟姉妹、従兄弟・従姉妹に宛てたもの、年長者（上司も含む）に送ったもの、友人たちに寄せたもの、自分の家族に与えたもの等々、全二百十三通が『聞一多全集』（孫党伯・袁霽正主編 湖北人民出版社 一九九三・一二）に集められている。家族関係は弟の聞家駟を含めた実家の人々、青春時代の多くは梁実秋・饒孟侃等の提供による。因みに、魯迅もそうであるが、わが国の夏目漱石や森鴎外の場合もある年代を除き残っていない。手紙の持つ門外不出性と受取り手のまめさ加減によるものである。両親に宛てた手紙も残っていないことが多い。本稿では、扱われることが余り多いとはいえない、家族宛ての手紙を中心にして、その特色等を述べてみたい。

聞一多の書簡を眺める前に、趙樹功『中国尺牘文学史』（河北人民出版社 一九九九・一一）等により、その独特な表現を挙げておく。

A. 奉書語（書き出し語）

- 一. 父母・膝下 膝前
- 二. 長上・尊前 左右 鈞鑑 鈞覽
- 三. 同輩・閣下 足下 大鑑 台鑑 台覽 惠鑑 青鑑

3 中国の書簡文

四. 相識..如晤 如面 如睹 如握 如見

五. 政界..節下 座下

六. 女性..粧次 匳次 芳鑑 懿

七. 幼少..收覽 覽悉 知悉

B. 啓事語(書き出し語)

一. 尊敬者..敬稟者

二. 上司 ..敬肅者

三. 同輩 ..敬啓者

四. 非公式..茲啓者

五. 返信 ..敬復者

六. 訃報 ..哀啓者

C. 恭謙語(尊敬・謙讓の語)

一. 恭維 敬維 即維 辰維 近維 邇維 比維 欣維 緬維 伏維 仰維 欣悉 敬悉 藉諗

D. 接緘語(返書)

一. 同輩..琅函 華札 雲箋 手札 芝函

二. 長上..鈞諭 鈞函 朶雲 手数 手示 手諭

三. 父母..嚴諭 慈諭

四. 年少..來稟 來函 稟函

E. 接見語 (人に会った時の語)

一. 長上 茲顔 鈞顔

二. 同輩 豐標 芝標 豐采 芝宇 芝範

三. 女性 芳儀 蘭儀 懿範

F. 承願語 (愛顧・恩恵を受けた時の語)

一. 友人 貴臨 賜顧 惠顧 枉顧 光臨 駕臨 光降 移玉

二. 女性 鸞輿 魚軒

三. 文人 文從 文旌

G. 拜謁語 (拜謁関係の語)

台端 台階 崇階 華堂 貴府 尊潭 台墀

H. 托庇語 (庇護を求める時の語)

大厦 仁宇 幘幘 蔭庇 樾蔭

I. 求恕語 (許しを求める時の語)

鑑原 鑑諒 原諒 原宥 曲恕 曲原 恕罪

J. 拜托語 (頼み事をする時の語)

吹嘘 鼎言 汲引 鼎力 説項 玉成 照弘

K. 允諾語 (承諾をするときの語)

金諾 俯允 慨允 季諾 愈允 台允 允諾

L. 奉布語（願い事をする時の語）

- 一. 同輩..専此奉布 専此布達
- 二. 懇望..専此奉懇 専此奉托
- 三. 長上..肅此敬稟 肅此叩稟 専此上稟 肅此上陳 専此上達 肅此謹稟 専肅謹稟
- 四. 返信..専此布復

M. 請安語（機嫌伺いをする時の語）

- 一. 同輩..近祺 日祺 近安 安祉 台安
- 二. 長上..近福 崇祺 福綏
- 三. 女性..懿安 匱安 坤祺 慈安
- 四. 季節..春安 春祺 夏安 暑安 暑祺 秋安 秋祺 冬安 冬祺
- 五. 上司..勲安 勲祺 鈞安 鈞綏 崇安 籌安
- 六. 商業..籌祺 財安 財祺
- 七. 文人..文祺 吟安 撰祉 著安 編安
- 八. 旅行..旅安 旅祺 旅佳 羈安
- 九. 服喪..孝履 礼安 素安
- 〇. 当日..日禧 早安 午安 晚安
- 一. 年賀..年禧 新禧 新社 新祺
- 二. 祝祭日..節禧 節祺 節祉

N. 接尾語（結びの語）

不宣 不一 不尽 不既 不悉 不截 不備 不具

O. 具名語（結びの際、名前に添える語）

- 一. 父母.. 跪稟
- 二. 長上.. 叩稟 謹稟 叩上
- 三. 同輩.. 敬啓 手啓 拜手 頓首 上言 拜上
- 四. 年小.. 此諭 此示 此字 此白

聞一多の手紙は、父母、兄弟、従兄弟、友人、上司、妻、子どもに宛てたものと、各關係によつて分類ができる。父母、年長者に書き送つたものとしては、次のように、伝統的な尺牘文体で書かれる。例えば、一九一六年一月の手紙は、

「一」久未奉稟、家中吉否？甚以爲念。男與五哥近均健飯如恆、可勿慮也。工業學校已放寒假、清華學校休假期之期當在月底。校中月紅痧症甚行、同學死是疫者二人。幸以防范周善、不致傳染、近日乃絕、幸甚！津門現方猖獗、聞系天氣過暖之故。北方近歲甚燠、雨雪亦甚稀、近數十年來所罕見者也。二哥近有信歸否？滇事真相、頗不易知、據此間輿論、無大暴動也。肅此虔請弗安。

男多 叩

陽曆元月九號

とある（書簡の文頭の数字は『聞一多全集』所収時の番号。以下同じ。「書奉語」はないが、「奉布語」の「肅此虔請弗安」が用いられており、文言で書かれてもいる。また、一九二二年八月、アメリカから故国の父母に寄せた手紙には、次のように書かれる。

〔二五〕父

親大人膝下；許久未奉 手諭、不知家内均吉否？深念深念。男等近均
母

無恙祈勿慮。上月成績已揭曉者四門：英讀本中十、英作文上、歷史上、代數中。此學期任新劇社事又《學報》中文編輯、雖稍忙、志乃在于服事、讀書書兩全。暇時不能鑽研經、史、稍稍讀詩文期于不間斷耳。讀經、史終以暑假爲以時寬而志專也。陳仁先前輩在清華任教習、授男文學史、前階八哥造謁、曾詢問 伯父也。節過駟弟當讀書作文寄來。附上《週刊》三份、祈 察收爲禱。肅此敬請

福安

男多 叩

ここには、——線部の「大人膝下」、「手諭」、「肅此敬請」、「福安」、「叩」が用いられ、聞一多が「尺牘文」流で書こうとしていることは明らかである。ここで使われている「多」は、聞一多の学名で、「一多」は後年、清華在学中に自ら改名したものである。この年の五月、父母に宛てた手紙には、

「二二男」 駢 叩

とあるように、族名を書く場合もある。また、「叩」は、本来、「肅此叩稟」とあるべきところであるが、簡略化されて、「叩稟」のみの場合もある。「息子」の意味の「男」は小文字で書かれる。アメリカにやって来た聞一多は、父母宛てに次のように書き送る。

「二五」父

母 親大人暨閤室公鑑

這種寫信底格式是我創的。我想這樣既可使我省寫許多重複的字、又使家中多讀長篇的詳細的信。以後永久仿此。……余當讀聞。崑此敬請

金安

一多

白話による手紙を書くと言言するのである。確かに、正文は白話であるが、

「二五」父母親大人暨閤室公鑒

と「書奉語」は残っているし、

崑此敬請

金安

という「奉布語」も残っている。同じく八月に書かれた手紙でも、

〔二六〕雙親大人暨閨室公鑑

八哥已自舊金山來電、稱已抵岸、計明早可到支城。……

一多

という形式を取る。「正文」を白話で書き、「奉布語」、「請安語」、「接尾語」、「具名語」等は、必ずしもそれを全廃するわけではない。英文の手紙を模倣したものであるが、確証はない。両親宛ての手紙の中で、母親だけに宛てたものが一通残っている。アメリカの母の日に、母親に出した手紙である。

〔六八〕今日爲此邦之母日、子女皆有禮物奉贈母親。且各于衣襟攢上一鮮花、以示孝思。母在者花色紅、母亡者花色白。近日居停主婦推戶而入、笑容可掬、延男與錢君觀其三女所遺之花朶及賀帖。是時男寸心悸動、而慈顏遠

隔感可知也！歸而書此、恭祝母親萬福金安！然花不可奇、賀帖亦不適用。（賀帖書古語或短詩數句、可由坊間購得、但皆爲英文、故不適用）。居停知男爲詩人、囑男自爲一詩、奉遺吾母。願吾作詩即佳、能勝古人？爰錄孟東野游子吟以表孺懷：

慈母手中線、游子身上衣。臨行密密縫、意恐遲遲歸。誰知寸草心、報得三春暉。

然男更有禮物豐于一切禮物者、則近日有兩友見男、一曰你長胖了、一曰這里幾個人、只有你面多血色。男以赤色書此、一以表吾母之壽、猶美國人之佩赤花然、一以示男面之血色、庶吾母觀此書、猶對男面耳。書華復以俗語祝吾母壽比南山！

男 多 自美國芝加哥叩稟

と比較的口語に近い表現をしている。

聞一多より年長の胡適には、母親に宛てて書いた手紙が多く残されている。一九〇八年七月、母親に宛てた手紙には、

慈親大人膝下：

謹稟者、今日接得大人訓示及仁叔手札、均爲兒婚事致勞大人焦煩。……

兒子嗣糜飲泣書（七月三十一日）

とあり、「慈親」、「大人膝下」、「謹稟」、「仁叔」、「手札」等が用いられている（耿雲志 欧陽哲生編『胡適書信集』（上）北京大學出版社 一九九六・九）。胡適も聞一多同様、奇しくもアメリカにおいて、文体を変えている。同じく一九一一年九月の手紙で、

吾母大人膝下：

と書き、同じく一九一二年五月には、

母親大人膝下：

と書き、一九一二年六月には、

吾母膝下：

等と変わり、一九一三年三月に、

吾母：

となつて以来、殆ど「吾母」の形を用いていく。ただ、「正文」の文体は必ずしも白話ではないが、次第に白話化していく様は見取れる。

二

兄弟、従兄弟、友人たちに寄せたものは、多く白話文で書かれるが、年代が浅いうちは、やはり、文言で書かれる。例えば、一九一八年一月、弟の聞家駟に宛てたものには、

〔四〕駟弟青及：久未通音問、家中大小均安否？深以爲念。五哥昨有信來、人事尙好。清華學校于下禮拜舉行周年紀念會、近日正值一切預備、急形忙碌。近日北方天氣炎燥、南方當必有更甚者也。附寄作文一篇、呈 父親大人尊覽。弟讀書近覺有進步否？暑假不遠、歸家時試觀弟程度何如、勉之。

草此、余不多贅。順問

近好。

兄多 上

とあり、「青及」を使って年下の者への書き方をしている。一九二七年三月の手紙になると、

〔二八〕駟弟：到校後、作詩、抄詩、閱同學所作詩、又同他們講詩、忙得個不亦樂乎、所以也沒有功夫寫信給你。

我的《紅燭》（我的詩集）滿四五十首、計到暑假當可得六十首。同學多勸我付印聞世者、我亦甚有此意。現擬于出洋之前將勸稿托梁君治華編訂、托時君昭瀛經理印刷。我于此道亦稍有把握、不致落人後。我願你亦多用功、我定能助你。相傳李太白醉而見月于水中、因入水捉月、遂溺死。此事雖不甚可靠、然確爲作詩好材料。我現在正作此詩名李白之死。脫稿後、即寄來一讀。

二哥事發表否？馮孝章近狀若何？你的近狀若何？望一一告我。餘續談。

兄 一多

と、「正文」では、若干の古い言い回しはあるものの、白話の文章語となっている。

更に、自分の家族（妻・子ども）に与えたものは、年代が下つて、世の中自体が白話化しているため、用字が白話文であることは無論、より平易な文体が用いられる。例えば、次は聞一多が直接妻宛てに書いたもので、日中戦争が勃発し、北京にいた聞一多が武漢に残した妻に安否を知らせたものである。

「二二八」貞：如果你們未走、縱然危險、大家在一起、我也放心。……

總之、我十分知道局勢的嚴重、自然要相機行事、你放心吧好了！

多

のように、緊迫した時局の中で、家族を思いやる心情が行間に垣間見える。実は、妻名義で書かれた手紙としては、現存のものとしては最初のものである。

それまでは、他の人宛てに書かれた手紙の中に遠慮深く消息を聞くというスタイルを取る。例えば、一九二二年三月にも父母宛てに、妻の勉学問題に関する手紙を書いている。

「一七」我媳婦定住半月即歸。屆時務請五舅來接。千萬千萬。此關係伊的學業、即伊的終身之事。請兩位大人勿循俗套必住二十八天、致誤伊光陰。我之此次歸娶、純以恐爲 兩大人增憂。我自揣此舉、誠爲一大犧牲、然爲我 大人犧牲、是我應當並且心願的。如今我所敢求于 兩大人者只此讓我婦早歸求學一事耳。大人愛子心切、當不致藐視此請也。

一九二二年八月の両親宛の手紙には、

「二六」……諸侄已入學否？十四、十六兩妹與孝貞讀書不可間斷、孝貞分娩當爲乳母、以免分彼讀書之時。家中若望我之信、當思我之望家信情急百倍、甚望孝貞及兩妹寫信來、借以觀彼等之進步。

と十四、十六妹と合わせた形を取る。さらに、一〇月の手紙には、

「二七」孝貞計應分娩矣。千萬須爲伊雇乳母、以免分伊讀書之工。

と、妻が出産する時は、乳母を雇って、勉強の時間が取れるようにしてほしいと書く。また、一九二二年一月の両

親宛の手紙には、

「四一」……父親寫字不便、十四、十六兩妹同孝貞要寫信來。

と、十四、十六妹、妻に手紙を書いてくれるように頼む。同年一二月には、

「四三」以下の話、十四、十六兩妹及孝貞都當听者。你們看這次我的信里又提到一個美國的女詩人、因爲誇獎了我的詩、我就很以爲得意。這樣看來、女人并不是不能造大學問、大本事。我們美術學院底教員多半是女人。女人并不弱似男人。外國女人是這樣、中國女人何嘗不是這樣呢？好像你們要我寫信寫楷字、你們實在辦不到、第一桩、我太忙了、第二桩、我寫楷字真寫得不痛快。請你們原諒我。好在我寫的都是行書、沒有草字。行書你們也是要學的。

と書くが、いずれも、聞家にいた未婚の姉妹と合わせて書いている。一九二三年三月のものも追伸の場所に、

「六一」十三、十四兩妹及孝貞再寫封信來看看你們的進步如何。又及。

と婉曲的に手紙を書いてほしいと要求している。

これを書いて以来、先に挙げた三七年七月までの便りは残されていない。この間、一四年のブランクがある。聞一

多がアメリカ留学から帰国したのは一九二五年五月末であり、上海（国立政治大学）、南京（南京中山大学）、青島（国立青島大学）と単身で赴任することが多かったが、この間の妻宛ての書簡は残っていないのである。三七年七月一日の妻宛ての便りには、

「一二九」親愛的妻：這時他們都出去了、我一個人屋裏、靜極了、靜極了、我在想你、我親愛的妻。我不曉得我是這樣無用的人、你一去了、我就如同落了魂一樣。我什麼也不能做。前回我罵一個學生爲戀愛問題讀書不努力、今天才知道我自己也一樣。這幾天憂國憂家、然而心里最不快的、是你不在我身邊。親愛的、我不怕死、只要我倆死在一起。我的心肝、我親愛的妹妹、你在哪里？從此我再不放手離開我一天、我的肉、我的心肝！你一哥在想你、想得要死！

親愛的：午睡醒來、我又在想你。世局確乎要平靖下來、我現在一心一意盼望你回來、我的心這時安靜了好多。

十六日

妹、今天早晨起來拔了半天草、心里想到等你回來看著高興。荷花也打了苞、大概也要等你回來開。一切都是爲你！

十七日早

と、あたかも恋人に宛てたような書き方をする。聞一多当年とつて三十九歳であつた。翌々日の十九日、彼は子どもと趙媽というばあやさんを伴つて、北京を發つて武漢に向かう。この月の七日、盧溝橋事件に勃発したため、北京在住の文化人は各地に避難をしていたのであつた。西南聯合大学に赴任するため、一先ず子どもを武漢に預け、昆明に

仮住まいする。

かくて、聞一多は、子どもたちに手紙を書き始める。一方、妻宛てのものは、家庭内の諸事が多くなっている。子どもたちに次のように書き出す。

「二三九」鶴雕朋（鵬一筆者）名：我現在住的房子、曾經蔣委員長住過、但這房子并不好、冬天尤其不好。這窗子外面有兩扇窗門、是木板做的、颳起風來、劈劈拍拍打的相聲很大、打一下、樓板就震動一下、天花板的泥土雖著往下掉一塊。假使夜間你們住在這樣一間房里、而且房里是點著煤油燈、你們怕不怕？這就是現在我所住的房子。但是這里風景卻好極了。最有趣的是前天下大雨、我們站在陽臺上、望著望著一朵雲彩在我們對面、越來越近、一會兒從我們身邊飄過去、鑽進窗子到屋子里去了。中國古時、管五座大山叫五岳、中岳嵩山在河南、東岳泰山在山東、北岳恆山在河北、西岳華山、南岳衡山在湖南、就是我現在所住的這地方。古人說游山若游遍五岳、便足以自豪。我從前過泰山、現在又住在衡山、五岳中總算游了兩岳。

十一月八日 父字

と生まれた順に名前を書き、自分の住んでいる場所を紹介し、中国の五山のうち東岳と南岳の二つに登ったと自慢げに話す。追伸の所に、

「二三九」這封信、鶴雕兩人看的懂嗎？如果你們喜歡這樣的信、以後可以常常這樣寫。可是這些信、你們要好好好的保存。

のように、年かさの二人に父親の手紙を幼い弟妹に読んで聞かせるよう求めている。ちなみに、末っ子の聞恵は昆明で生まれたため、名前を残していない。その数日前には、上の二人宛てに、

「一二七」鶴

兩兒：昨天寄回一信、想已受到。盼望你們來信、到現在還是沒有。小小妹病究竟好了沒有？小弟大妹

好否？鶴兒身體有進步否？離兒讀書用心否？我無時不在挂念。我明天搬到衡山上去。衡山又名南岳、所以那邊有一鎮市名曰南岳市。你們寫信可以寫湖南南岳市臨時大學文學院。昨天這裡有過一次警報、但敵機并未來。南岳離長沙一百餘里、汽車行三四小時。那邊決無空襲的危險。你們都要听媽媽的話、千萬千萬。

父字

と書いている。上の二人の中でも、次男の立離には手紙係を命じていて、

「二五四」離兒知悉：我在家時曾囑你特別要多寫信來。難道我一出門、你們就把我忘記了嗎？但我並沒有忘記你們、尤其是你們讀書的事。你尤其要用心、也不要和小弟大妹吵鬧。一切要听 爹爹說話。鄉里暫時平安、一切我都放心、所不放心的、就是怕你們不用心讀書。我今天上船、三天後到常德、再寫信回。

父多字

と書く。鵬が少々腕白気味であつたため、手紙係を勤めさせることで、父親不在中の野放図さを戒める意味もあつたのであろう。彼に分かるように白話で書かれている。長男の立鶴には、時下の情勢、家の経済、家族の安否等、一家の長男として扱っている。後に聞一多が国民党の便衣隊によつて暗殺された時、立鶴も凶弾を受けて瀕死の重傷を負っている。父親を守るといふ意識があつたためである。手紙には、次のように書かれる。

「二四二鶴兒知悉：汝母四日及三日所寫之信、今已受到。我在此間有許久未見報紙、故武漢情形、完全不知。今數日來始稍得消息、聞武漢人心頗恐慌、政府并且勸令人搬下鄉去。

と。父親、聞一多から子どもたちに出した手紙は、一九三八年五月のものが最後となる。一緒に住むことになつたためである。聞一多は当時、蒙自に仮住まいをしていた。

「二六二鶴、離兩兒閱悉：今天上課回來、看見桌上一封家信、已經喜歡得很。擦開一看、文字比以前更通順、字跡也整齊、我更高興。再加上信中帶來消息、說北平的書寄來了一部分、尤其令我喜出望外。今天非多喫一碗飯不可！你們的信稿究竟有人改過沒有？像這樣進步下去、如何是好！你們真感謝 祖父、應當加意服侍 祖父和祖母。你們年紀一天大一天、應該能夠服侍。寫信可以代替作文、以後要每星期來一次信。如果太忙、可以由你們二人和你母親輪流寫。信中少說空話、多報消息。家中或鄉間任何瑣事、都是寫信的資料。這樣寫法、我每次接到你們一封信、不就等于回家一次嗎？上次寫信給 祖父、請教你們讀四書、不知已實行否。在這未上學校的期間、務

必把中文底子打好。我自己教中文、我希望我的兒子在中文上總要比一般強一點。三月薪金已發、但蒙自尙未領到。因爲此地銀行辦事處尙未成立、一時也不能匯錢回來。你母親手中余款總共還有多少、來信無須告我。小弟、大妹、小妹做些甚麼、說些甚麼、也告訴我、我很想念他們。天氣漸熱、怕生病、一切要小心。每次來信應書明陽曆日期

父字

子どもたちをうまく誉め（煽て）ながら、手紙を書かせることを通じて、家庭の様子、武漢の老父母の様子、武漢で手に入る他の地方の情況を知ろうとしている。それは、同時にインテリの家としての教育にもなっている見事な便りだと言える。

おわりに

こと、書簡文の文体という点から見れば、各種の文体が聞一多によって用いられている。わが国の言文一致体の経験を経た、近代文学者のそれにも匹敵するものと言える。すなわち、彼の書簡を読むことは、中国において白話化が進行していく過程を見ていくことにもなるであろう。

内容的には、本稿では述べなかつたが、友人たちに寄せたものが多岐に亘つていて興味深い。胡適がアメリカから友人に送った書簡の場合もそうであったが、彼等の書簡は新しい事物の紹介であるとともに、試みに自己の意見を述べ、それに対する意見を求めたものであった。因みに、胡適の場合は、「文学革命」に通じる、「八不主義」を語ったものであったし、聞一多の場合は、アメリカのイマジストたちへの共感を語り、後の「格律詩」に繋がるものを提起

したのであつた。さらにまた、彼の場合、自らの詩を発表する場でもあつた。この傾向は、夏目漱石にもあり、書簡の持つ意味は、今日の我々が考える以上に多種の機能を担っていたということが出来よう。本稿では触れられなかつたが、英文で認められたものについては、改めて、眺めてみることにしたい。

（本稿は、二〇〇三年一月八日（土）、大阪学院大学で開催された日本文体論学会第八四回大会で発表した「中国の書簡文——聞一多の場合——」の草稿に若干手を入れたものである。）